

朽ちた大枝墓上に ドサッ！

～公民館近くのカジュマル～

役員 父母有志頑張り片づける

3年前、枝が伸びすぎ近くの住宅のコンクリートまで被害が出そうになり、一部の枝を切り取ったカジュマルの大木。残った枝に除草剤を注入し自然に枯れるのを待っていたが、ついに最近の大雨と覆い被さったツタの重みで一部が根本近くから折れてしまった。幸い夜半。落ちた墓地も損傷はなく、切断五は資源ゴミで搬出する予定。まだ大きな枝が残っており近づかないよう気を付けて下さい。



墓の上に崩れ落ちた大枝（上写真）切り分け作業する父母有志（右）



再び公民館に元気な声

子ども教室 空手が始動



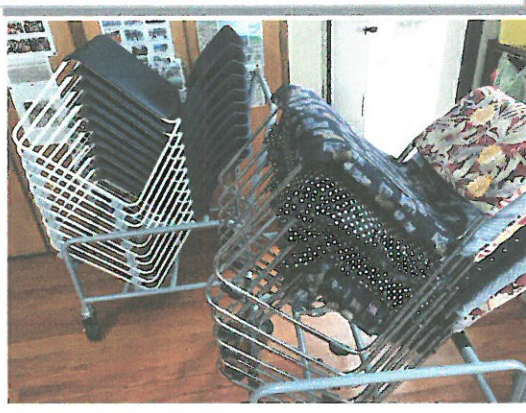
長引いた新型コロナウイルスの緊急事態宣言の自粛期間。既に学校は再開し、高齢者のワクチン接種も進んでいますが、変異型の広がりもあり子どもたちの活動再開も慎重に対応して

きました。父母や指導者とも相談して今週からの再開を決めています。「ふれサロ」は来週から今のところ全員がワクチン接種が完了しているか不明ですので、これ



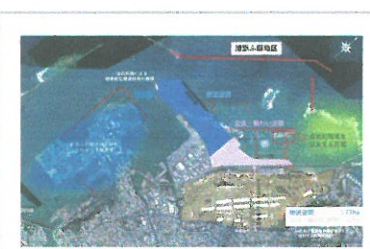
公民館の活動 楽になります

大西さん 今年も備品寄贈
イス 10脚 収納キャスター



大西孝司さん（5班）有限会社・創代表者）から、今年も公民館備品の寄贈がありました。10年以上継続しています。折りたたみイスが古くなり、脚の金具が壊れたり、座るところが破けるなど、人数の多い習字などでは結構不便な状態でした。今回は座席がプラスチック製で座り心地は少し固めですが丈夫です。また、ついでに可動式のイス収納キャスターも寄贈して貰いました。お陰で狭いフロアも、手早くすっきり後片づけ出来ます。本当に感謝です。

まで通り体調を見ながら、自由参加でお願いします。送迎が必要な方はご連絡下さい。
宣言期間中も公民館では婦人有志が「がんじゅう訪問」の弁当作りを続けてくれました（写真）。「ふれあいサロン」メンバーの外、わざわざボランティアで手伝ってくれた方もいます。ありがとうございます。
また、カーミージー未来クラブの子どもたちにも弁当が造られ、配られました。ありがとうございます。



最も許せないには特定事業所との随意契約だ。公社と言えど、実質は市行政の一部。使う金は公金だ。売る土地から返せば良い、とはならない。視察旅行の贅沢な使い方を含め、役得だけではない「何か」があるのか？ふ頭計画自体SDGs時代の社会発展の在り方とは思えない。白紙から市民と再協議し、計画を見直すことを提言したい。

やはりか！浦添市土地開発公社が不明朗な公金の使い方では揺れている。公社は、いわば市の不動産部門。港湾道路やパルコなどに売却された「第1ステージ」の埋立造成も同公社が行ってきた。今検討されている「浦添ふ頭」地区埋立も同公社が行う。埋立後の土地所有者だ。そもそも「公社」の存在は土地高騰で公共事業がままならなくなる事態に対し、先行して公共用地を取得するのが目的。バブル期、「埋立の方が安くつく」と埋立に傾いていたいささがある。安易な過去の手法だ。
カーミージー周辺は早くから総合計画でも「海浜公園」として計画しながら、所有していた民間企業が資金繰りに困り、買い手を捜したとき、公社は一つ動かなかった。とにかく「西海岸埋立」以外目がいけないと言う対応だった。案の定、県外リゾート企業が購入し、里浜公園が進んだときは「高すぎて買えない」と断念した経緯がある。なぜ、これほど埋立に拘るのか？不思議だった！

ゆいぐさき ときどき閑話